

主な出来事

【内政】

- 7日、ブレーズ・ジャーニュ新国際空港の開港式が行われた。サル大統領は、ボンゴ・ガボン大統領、バロウ・ガンビア大統領、ヴァス・ギニアビサウ大統領、トロヴォアダ・サントメ・プリンシペ首相らが同席の中、新空港をハブ空港として経済活性化の場としたい旨述べた。
- 11日、国民議会は3兆7090億 FCFA となる 2018 年当初国家予算を賛成多数により議決された。
- 19日、セネガル国水道公社 (SONES) は日本からの資金援助により実施される水の安定供給のための海水淡水化計画の建設工事管理契約に署名した。
- 31日、サル大統領は2017年の国家事業の達成状況及び2018年の方針について国民向け演説をおこない、2017年の好調な経済成長率を評価するとともに2018年も好調な経済成長の見通しを発表した。

【外政】

- 12日から14日、サル大統領は東京で開催された「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) フォーラム 2017」に出席するため訪日し、安倍首相と首脳会談を行うとともに、日・AU 友好議連、JETRO 理事長、セネガル友好議連及び JICA 理事長らと面会した。
- 14日、日本の総額約9300万 FCFA の無償資金協力により、ケジャワイ県のボドウアン病院にマンモグラフィが整備された。

【経済】

- 11日、バ経済・財政・計画大臣は、PSE に基づく2018年から2020年までの公共投資 3 年プロジェクト (PTIP) に対し、3年で6兆2578億 FCFA を投入する予定を発表した。

【内政】

12月7日のブレーズ・ジャーニュ新空港 (AIBD) の開港

- 7日、ブレーズ・ジャーニュ新国際空港の開港式が行われた。サル大統領は、ボンゴ・ガボン大統領、バロウ・ガンビア大統領、ヴァス・ギニアビサウ大統領、トロヴォアダ・サントメ・プリンシペ首相らが同席の中、新空港をハブ空港として経済活性化の場としたい旨述べた。あわせて、サンルイ、マタム、ジガンシヨール、タンバクンダ及びケドゥグの空港の予算 1000 億 FCFA の改修を 2018 年初頭までに開始予定の旨発表した (7日、APS)。
- 14日夜からブレーズ・ジャーニュ新国際空港において航空管制官の勤務待遇改善を求めた24時間のストライキが発生し、航空ダイヤに混乱が生じた (15日 APS)。
- 16日、ジョヌ首相が航空管制官労働組合に対し、勤務待遇改善を約束したことで、ブレーズ・ジャーニュ新国際空港のストライキは収束した (16日 APS)。

2018年国家予算

- 11日、国民議会は3兆7090億 FCFA となる 2018 年当初国家予算を賛成多数により議決し、歳入の内訳は2兆2110億 FCFA の税収、1170億 FCFA の税外歳入、648億 FCFA のその他の収入、寄付金470億 FCFA、6410億 FCFA の公債金及び5170億 FCFA の国際協力金となる (12日 APS)。

ハリファ・サル・ダカール市長の公判

- 14日、裁判所は2018年1月3日にハリファ・サル・ダカール市長の公判を行う旨発表した(14日 APS)。

マメル海水淡水化計画

- 19日、セネガル国水道公社は水の安定供給のための海水淡水化計画の建設工事管理契約に署名した。その中でシャルル・ファル・セネガル国水道公社総裁は2018年12月中の工事開始予定の旨、建設費131350億 FCfa は日本からの資金援助である旨発表した(21日 Le Soleil)。

セネガル川における橋建設

- 22日、サン・ルイ州副知事のアマドゥ・ジョップ氏はサン・ルイ州ロツソを流れるセネガル川に建設予定のセネガルとモーリタニアを結ぶ橋の着工が2018年3月までに開始される旨発表した。建設費は570億 FCfa を見込んでいる(26日 Le Soleil)。

サル大統領国民向け演説

- 31日、サル大統領は2017年の国家事業の達成状況及び2018年の方針について国民向け演説をおこない、2017年の好調な経済成長率を評価するとともに2018年も好調な経済成長の見通しを発表した。また平和強化と脆弱な層への支援を推し進める旨発表した(31日大統領演説)(往電第10号)。

【外政】

西アフリカ開発銀行による融資

- 10日、ダカールで開催された西アフリカ開発銀行(BOAD)の理事会において、西アフリカ5カ国(ギニアビサウ、コートジボワール、セネガル、ブルキナファソ及びマリ)に対し総額581億 FCFA の融資を行う旨承認した。その内訳は中長期融資に406億 FCFA、短期融資に100億 FCFA 及び債務保証に75億 FCFA となる。(14日 APS)。

中国関連

- 11日、駐セネガル中国大使は2017年1月から8月までの中国による非金融直接投資総額が360億 FCFA を超えた旨明らかにした(11日 APS)。
- 11日、在セネガル中国大使館職員は300の村で衛星放送が見られるようにするプロジェクトを開始する旨発表した(12日 APS)。

東京でのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)フォーラム2017

- 12日から14日、サル大統領は東京で開催された「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)フォーラム2017」に出席するため訪日し、安倍首相と首脳会談を行うとともに、日・AU友好議連、JETRO 理事長、セネガル友好議連及び JICA 理事長らと面会した(14日 RTS 他)(往電第1669号)。

カザマンス開発

- 12日、駐セネガル米国大使はカザマンス地方の開発プロジェクトを活性化させるため、セネガル治安機関とカザマンスの平和と安全を強化するため活動を活性化させる旨発表した(12日 APS)。
- 13日、レティシア・オルティス・スペイン王妃はスペイン国際開発協力庁(AECID)から6億5600万 FCFA の支援を受けた受益者の一つであるカザマンス地方南西部ウスイにある小規模農家を訪問した(13日 APS)。

セネガル川流域機構(OMVS)関連

- 17日、セネガル川流域機構(OMVS)はセネガル川流域における水源管理及び水・エネルギー・農業の連携に関するプロジェクトを開始した。本プロジェクトはEU、欧州委員会共同研究センター及びイタリアから2017年から2021年までの期間で40億 FCFA が投入される(17日 APS)。

日本による乳がん検診機材整備

- 14日、日本の総額約9300万 FCFA の草の根無償資金協力により、ケジャワイ県のボドゥアン病院にマンモグラフィーが整備された。これにより、同病院では乳がんの早期発見につながる検診を提供できる(16日及び17日 LeSoleil)(往電第1689号)。

カタールとの協力関係

- 20日、サル大統領はタミーム・ビン・ハマド・カタール国首長の初セネガル訪問を受け、両首脳は青少年分野、スポーツ分野、文化協力に関する協定書に署名した(21日 Le Soleil)。

マリ元大統領の帰国

- 22日、セネガルに亡命中のアマドゥ・トゥマニ・トゥーレ・マリ元大統領は23日のマリ帰国前にサル大統領と会談し6年間の亡命生活におけるセネガルの接遇に感謝の意を表明した(23日 Le Soleil)。

【経済】

PSE 関連プロジェクト

- 11日、バ経済・財政・計画大臣は、PSEに基づく2018年から2020年までの公共投資3カ年プロジェクト(PTIP)に対し、3年で6兆2578億 FCFA を投入する予定を発表した(11日 APS)。
- 26日、サル大統領は2035年までの新興計画を深化させるため政策専門家らを集めた Initiative2035 を発足させ、初回会合を開催した(27日 Le Soleil 他)。

ダカール港投資

- 20日、ダカール港湾局長は、ドバイ・ポーツ・ワールドはダカール港に対し、2008年から総額1250億 FCFA の投資をおこなった旨明らかにした(20日 APS)。

銀行関連

- 2018年1月1日よりセネガルの銀行は西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)との協議の結果、銀行会計適正化、預金保険制度、送金制度の適正化に関する新たな規則を適用させる(22日 Le Soleil)。 (了)